

Nikon Z 50 4つの特徴

POINT

1 機動力を引き出す 軽量・コンパクトなボディ

重さわずか450g※、幅126.5mm、高さ93.5mm、奥行き60mmと、レンズ装着時でもカバンにおさまるサイズ。カメラの負担から解放され、機動力が上がり、撮影の幅が広がれば、豊かな表現につながる。

※レンズ装着、バッテリーおよびSDカード装着時



撮影モード 絞り優先
絞り値 F8
シャッター速度 1/400秒
露出補正 ±0
ISO感度 200
ホワイトバランス オート
使用レンズ NIKKOR Z DX
16-50mm f/3.5-6.3 VR
焦点距離 50mm(75mm)



撮影モード マニュアル 絞り値 F9 シャッター速度 1/100秒 露出補正 ±0
ISO感度 100 ホワイトバランス マニュアル
使用レンズ AF-S NIKKOR 200-500mm f/5.6E ED VR(マウントアダプター FTZ使用)
焦点距離 270mm(405mm)



撮影モード 絞り優先 絞り値 F11 シャッター速度 1/400秒 露出補正 ±0 ISO感度 100
ホワイトバランス オート 使用レンズ NIKKOR Z DX 50-250mm f/4.5-6.3 VR
焦点距離 50mm(75mm)

POINT

2 ショートフランジバックの ZマウントDXフォーマット

Z 7、Z 6と同じ、大口径ショートフランジバックのZマウントを採用。DXフォーマットだが、FXフォーマット対応のZマウントレンズも装着することができ、Z 7、Z 6にも劣らない画質を楽しめる。



撮影モード 絞り優先 絞り値 F2 シャッター速度 1/500秒 露出補正 -0.7 ISO感度 400
ホワイトバランス オート 使用レンズ NIKKOR Z 50mm f/1.8 S 焦点距離 50mm(75mm)

ボタンやダイヤルの操作を覚えよう

Keyword

コマンドダイヤル、セレクトター、MENUボタン、iボタン

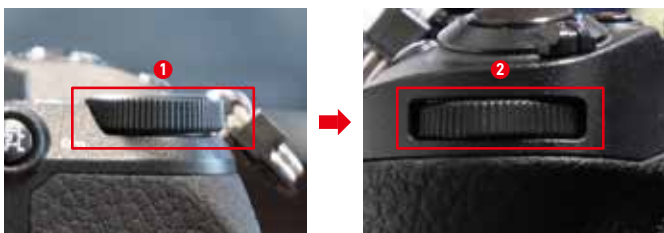
1

Z 50の基本操作をマスターしよう

Z 50の撮影でもっともよく行われるのが、**ボタンやダイヤルの操作**だ。配置と名称を覚えたら、それぞれがどんな機能を持っているかを把握しよう。また、メニュー画面を操作している時と、撮影画面での操作の違いも覚えておこう。

1 ダイヤル操作を覚える

Z 50で頻繁に使われるのが**メインコマンドダイヤル**と**サブコマンドダイヤル**だ。シャッター速度や絞り値など、撮影時の各種数値の変更が主な機能となる。また、ボタンと組み合わせることで、そのほかの数値を変更することもできる。



メインコマンドダイヤル**①**、サブコマンドダイヤル**②**を回して、絞りやシャッター速度を変更する。



例えばISOボタン**①**を押しながらメインコマンドダイヤルを回すと**②**、ISO感度を変更することができる。

2 マルチセレクトターの操作を覚える

ダイヤルの次に使用頻度が高いのが、**マルチセレクトター**だ。主にメニュー画面やiメニューでのカーソルの移動に使用する。撮影画面では、フォーカスポイントを移動させることができる。中央のOKボタンは、設定の決定に使う。

■メニュー画面でマルチセレクトターを使う



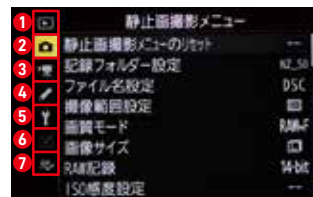
■撮影画面でフォーカスポイントを移動する



撮影画面で**▲**を押す**①**。

フォーカスポイントが上に移動する**②**。

3 メニュー画面から詳細設定を行う



メニュー画面では、各種設定を細かく行うことができる。メニュー画面が大きく**7つの階層に分かれている**ので、自分の行いたい設定がどの階層に含まれているかを確認しよう。

① 再生メニュー	④ カスタムメニュー	⑦ マイメニュー
② 静止画撮影メニュー	⑤ セットアップメニュー	
③ 動画撮影メニュー	⑥ 画像編集メニュー	

1

Z 50の基本操作をマスターしよう

タッチパネル／タッチキーの
操作を覚えよう

Keyword

タッチパネル、タッチシャッター、タッチAF

1

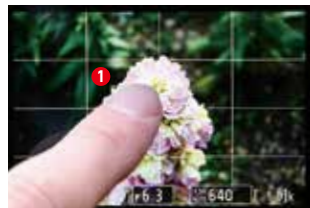
Z 50の基本操作をマスターしよう

Z 50は画像モニターが**タッチパネル式**になっており、**画面を指で触れたりなぞったりすることで操作を行う**ことができる。メニューでの操作、撮影時のタッチシャッターやピント合わせ、設定の変更などが可能だ。

1 タッチシャッターを覚える

撮影画面で画像モニターを触ると、**タッチシャッターを切る**ことができる。また、タッチ操作をAFのみにするなどの設定変更もできる。

■タッチシャッターを切る



カメラを構え被写体を写し、モニター上の被写体部をタッチする**①**。



タッチした被写体にピントが合い、そのままシャッターが切られる。

■タッチシャッターの設定を変更する



撮影画面左部をタッチすると**①**、タッチ操作の設定を変更できる。



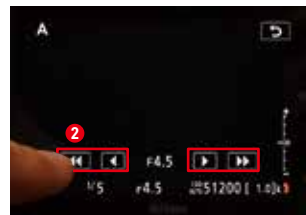
タッチシャッター／タッチAFともに有効、タッチAFのみ有効、タッチシャッター／タッチAFともに無効の中から選択する**②**。

2 タッチ操作で設定を変える

撮影画面には各種設定の数値が表示されている。この数値が白い枠で囲まれている時は、**タッチ操作で数値を変更**することができる。例えば、絞り優先オート(→P.68)の時は、絞り値を変更することができる。



設定したい項目をタッチする**①**。



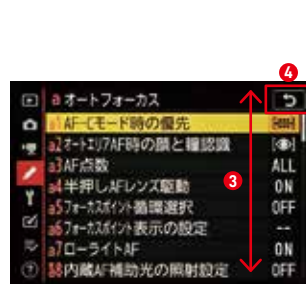
左右の◀▶をタッチして設定を変更する**②**。

3 メニュー画面のタッチ操作を覚える

メニュー画面でもタッチ操作は可能だ。設定したい項目をタッチして、奥の階層に入ったり数値を決定したりするほか、上下になぞることで画面をスクロールさせることもできる。



MENUボタンを押してメニュー画面を表示する**①**。設定したい項目をタッチする**②**。



ひとつ奥の階層に入る。画面を上下になぞると、メニュー画面がスクロールする**③**。◀▶をタップするとひとつ前の階層に戻る**④**。

要点

- Z 50はタッチ操作が可能
- 撮影画面では、タッチシャッターや設定の変更ができる
- メニュー画面では、設定の選択やメニューの移動ができる

1

Z 50の基本操作をマスターしよう

撮影モードを確認しよう

Keyword 撮影モード、シーンモード、スペシャルエフェクトモード

1

Z 50の基本操作をマスターしよう

Z 50には**8つの撮影モード**が用意されており、撮影モードダイヤルを回すことで変更できる。それぞれのモードにどんな特徴があるかを把握した上で、撮影シーンに応じて適切に使い分けよう。

1 撮影モードを知る

Z 50の撮影モードは、撮影者がシャッター速度や絞り値といった**数値を設定できるモード**と、撮影者がシーンやイメージのみを選択して**数値はカメラが設定するモード**の、大きく2種類に分けることができる。

撮影者はシーンやイメージの選択のみで、数値はカメラ任せになるモード。



絞りやシャッター速度などの数値を撮影者が設定できるモード。

■ 撮影モードを設定する



撮影モードダイヤルを回し、ダイヤル中央の指標にモードを合わせると①、撮影モードが変更される。

2 シーンモードで撮影する

シーンモードとは、**撮影するシーンが決まっている時に使用するモード**。例えば夜景を撮る時は「夜景」モードに合わせれば、カメラが最適な数値を設定して、きれいな夜景写真を撮影することができる。



撮影モードダイヤルをSCNに合わせる①。



メインコマンドダイヤルを回すと②、シーンモードを変更できる③。

■ シーンモード

ポートレート	人物の肌を滑らかで自然な印象に写す。
風景	自然風景や街並みを色鮮やかに写す。
こどもスナップ	子どもの肌の色、服装、背景を鮮やかに写す。
スポーツ	動きのある被写体の一瞬を鮮明に捉え、躍動感のある画像に仕上げる。
クローズアップ	花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写すことができる。
夜景ポートレート	夕景や夜景をバックに人物を撮影する。
夜景	ノイズや不自然な発色をおさえ、街灯やネオンなどの光を鮮やかに表現する。
パーティー	室内の光の雰囲気も残しながら表現する。
海・雪	晴天の海や湖、砂浜、雪景色などの撮影に適している。
夕焼け	夕焼け、朝焼けの風景を鮮やかに写す。
トワイライト	夜明け前や日没後の風景を綺麗に表現する。
ペット	動き回るペットや動物の撮影に適している。
キャンドルライト	ろうそくの光の下での撮影に向いている
桜	桜や花畑など、花がたくさん咲いている風景の撮影に適している。
紅葉	紅葉の赤や黄を鮮やかに表現する。
料理	料理を鮮やかに写し、美味しそうに表現する。

1

Z 50の基本操作をマスターしよう

顔認識&瞳認識を
活用しよう

Keyword

顔認識、瞳認識、オートエリアAF

AFエリアモードを**オートエリアAF**に設定していると、人物の顔や瞳に自動的にフォーカスポイントを合わせる**顔認識**と**瞳認識**を使用することができます。ポートレート撮影時に役立つ機能なので、使い方を覚えておこう。

1 顔認識、瞳認識とは

ポートレートは目にピントを合わせることが基本だ。そのピント合わせをサポートするのが**顔認識**と**瞳認識**。顔認識は、画面内に人物の顔がある時に、カメラが顔を認識してピントを合わせる。瞳認識は、人物の瞳にピントを合わせる。



「瞳認識」でモデルの目にピントを合わせて撮影。通常はフォーカスポイントを移動させて目にピントを合わせるが、自動で合わせてくれる「瞳認識」なら、より撮影に集中し、モデルの表情を注視できる。

カメラ設定

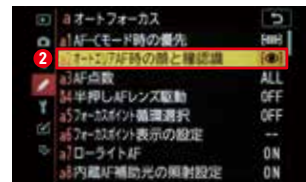
撮影モード	絞り優先	絞り値	F5.6	シャッター速度	1/320秒
露出補正	±0	ISO感度	400	ホワイトバランス	オート
使用レンズ	NIKKOR Z DX 50-250mm f/4.5-6.3 VR				
焦点距離	175mm(262mm)				

2 顔認識、瞳認識を設定する

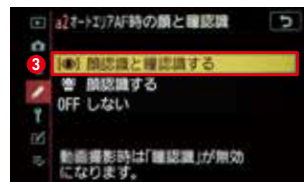
顔認識と瞳認識は、いずれも**AFエリアモードが「オートエリアAF」**に設定されている時に使用できる。顔が大きく写り、瞳をはっきり認識できる場合は瞳認識が働く。瞳は認識できないが顔は認識できる、という程度の時には顔認識が働く。また、複数の顔や瞳が写っている場合、**どの顔や瞳にピントを合わせるかを選択**することもできる。



AFエリアモードが「オートエリアAF」になっていることを確認する①。



MENUボタンから「a2 オートエリアAF時の顔と瞳認識」を選択する②。



「顔認識と瞳認識する」を選択する③。



画面の中に人物の顔が写った状態でAFを動作すると、人物の顔や瞳にフォーカスポイントが合う④。



画面内に複数の顔や瞳が写っている場合、フォーカスポイントの横に◀▶が表示される⑤。



マルチセクターの◀▶を押すと⑥、フォーカスポイントが移動する⑦。

要点

- 顔や瞳にフォーカスポイントを合わせる「顔認識」「瞳認識」機能がある
- 「オートエリアAF」の時に使用できる

Creative Picture Controlで
独創的な表現を楽しもう

Keyword Creative Picture Control

「Creative Picture Control」とは、特定の色のみの残したモノクロ写真にしたり、四隅をあえて暗くしてトイカメラ風に見せたりするなど、**写真によりアーティスティックな効果を乗せることができる機能**だ。

1 Creative Picture Controlの使い方

「Creative Picture Control」は、色合いや階調が綿密に作り込まれており、よりアート寄りの写真に仕上げるができる。見た目に忠実な写真ではなく、**ひと味変わった写真を撮りたい時に使うのが効果的**だ。



並木道を「モーニング」で撮影。青味が足され、暗部が持ち上がったことで、朝のような淡い雰囲気になった。

カメラ設定					
撮影モード	絞り優先	絞り値	F10	シャッター速度	1/250秒
露出補正	±0	ISO感度	800	ホワイトバランス	オート
使用レンズ	NIKKOR Z DX 16-50mm f/3.5-6.3 VR				
焦点距離	50mm(75mm)				

2 Creative Picture Controlを設定する

「Creative Picture Control」の設定は、**i**メニューの「ピクチャーコントロール」と同じ項目から設定できる。ちなみに、詳細設定の仕方も「ピクチャーコントロール」と同じだ。



iボタンを押して**i**メニューを開き①、「ピクチャーコントロール」にカーソルを合わせる②。



メインコマンドダイヤルが③、サブコマンドダイヤルを回し④、任意のモードを合わせる⑤。「ドリーム」より右側が「Creative Picture Control」だ。

Creative Picture Controlの種類

ドリーム	薄オレンジ色の色調にし、暗部を明るくして輪郭を弱める。
モーニング	青の色調にし、暗部を明るめにする。
ポップ	彩度を大きく上げ、全体を明るめにする。
サンデー	コントラストを高める。ハイライトは白とびする可能性がある。
ソナバー	彩度を高めるが、明度をおさえる。
ドラマ	全体は暗くなるが、ハイライト部は明るくなり、コントラストが強くなる。
サイレンス	彩度とコントラストが低くなり、軟調な写真になる。
ブリーチ	緑がかった彩度の低い雰囲気になり、銀残し風の写真になる。
メランコリック	マゼンタが足され、彩度を輪郭を弱めてレト調の写真になる。
ピュア	青味が足され、静かな雰囲気になる。
デニム	彩度を上げ、青味が強い写真になる。
トイ	彩度を高めて藍色に近い色を足し、トイカメラ風にする。
セピア	退色したセピア調の写真になる。
ブルー	全体的に青味がかかり、寂しげな印象の写真になる。
レッド	赤味の強いレト調の写真になる。
ピンク	ピンク色が足され甘美な雰囲気になる。
チャコール	優しい雰囲気の軟調なモノクロになる。
グラファイト	コントラストと輪郭を強めた、硬調なモノクロ写真になる。
バイナリー	ディテールが省略された、ほぼ2階調のみのモノクロ写真になる。
カーボン	全体的にアンダーがかった、黒を強調したモノクロになる。

スマートフォンを リモコンとして使おう

Keyword SnapBridge、Bluetooth、Wi-Fi、リモコン

カメラと端末を接続することで、**端末をリリースリモコンとして使う**ことも可能だ。機種が新しくなるごとに反応速度も速くなっており、リモコンでシャッターボタンを押してから実際にシャッターが切れるまでのストレスも少ない。

1 スマホをリモコンとして使う

カメラの電源のON/OFF、レンズの繰り出し、焦点距離の変更は、リモコンではできない。あらかじめ電源を入れ、構図などを整えてから、端末をペアリングして設定を整えよう。



ペアリングの前にカメラの電源を入れ、沈胴式レンズを使用している場合はレンズを繰り出しておく**①**。



「SnapBridge」に移り、画面下部の「リモート撮影」をタップする**②**。



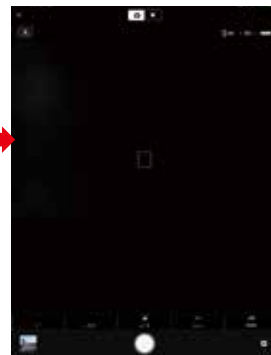
Z 50のWi-Fiへ切り換えるための確認画面が表示されるので、「OK」をタップする**③**。



再度確認画面が表示されるので、「接続」をタップする**④**。

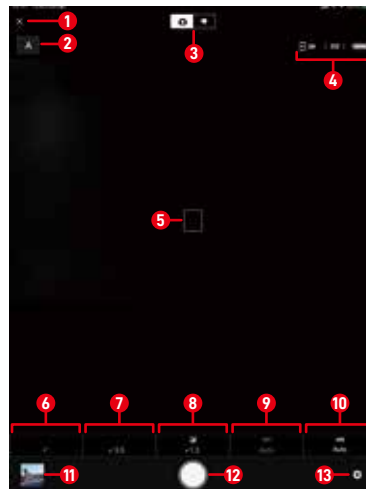


接続画面になるので待機する。円がすべて黄色になったら接続完了だ**⑤**。



端末がリモコン画面に変わる。ここから各種設定を整えていく。

リモート撮影画面の役割



①	リモート撮影終了
②	撮影モード
③	静止画／動画
④	画像転送／撮影可能枚数／バッテリー残量
⑤	フォーカスポイント
⑥	シャッター速度
⑦	絞り値
⑧	露出補正
⑨	ISO感度
⑩	ホワイトバランス
⑪	端末の写真フォルダ
⑫	シャッターボタン
⑬	カメラ設定

ONE POINT ISO AUTOの場合はISO感度を設定変更できない

カメラのISO感度設定が「AUTO」になっている場合、リモコンで変更することができなくなる。ISO感度をリモコンで設定したい場合は、カメラ側で「AUTO」設定を解除しておこう。

要点

- 端末をリモコンとして使うことができる
- 接続の前にカメラの電源を入れレンズを繰り出す
- ISO AUTOはリモコンでISO感度を設定変更できない

カメラとスマホの
情報を同期しよう

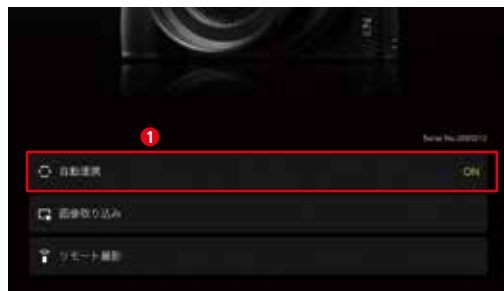
Keyword

SnapBridge、Bluetooth、Wi-Fi、位置情報

スマートフォンなどの端末は、電波を受信して時刻を合わせる電波時計を採用しているので、時刻のズレが少ない。「SnapBridge」で端末とカメラを接続すれば、**端末と同期することで時刻や位置情報を正確に合わせることができる。**

1 時刻を同期する

時刻の同期は、特に**海外で撮影する時に有効**だ。例えば日本時間で設定したままイギリスで16時に撮影すると、日本時間の1時に撮影した写真として記録されてしまう。正確な情報を残すためにも、時刻は同期しておこう。



SnapBridgeを起動し、「自動連携」をタップして①、設定画面を表示する。



「自動連携」がONになっていることを確認し②、「時刻情報を同期」をタップしてチェックを入れる③。端末とカメラを接続すれば、時刻が同期される。

2 位置情報を同期する

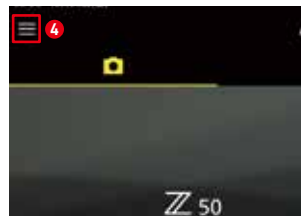
時刻と同時に正確に記録したいのが**位置情報**だ。撮影した写真を見返した時、どこで撮影したかを正確に思い出すことができる。また、撮影した写真を端末に保存した時にも、位置情報は継続して記録される。



SnapBridgeを起動し、「自動連携」をタップして①、設定画面を表示する。



「自動連携」がONになっていることを確認し②、「位置情報を同期」をタップしてチェックを入れる③。



次に位置情報の精度を設定する。左上の「≡」をタップする④。



「アプリ設定」をタップする⑤。



「位置情報の精度」をタップする⑥。



任意の精度を選択する⑦。精度が高いほど、端末の消費電力が多くなる。

要点

- SnapBridgeで同期することで時刻と位置情報を同期できる
- 時刻の同期は海外での撮影で重要
- 位置情報は端末に転送した後も記録が残る

全メニュー画面一覧



1 再生メニュー

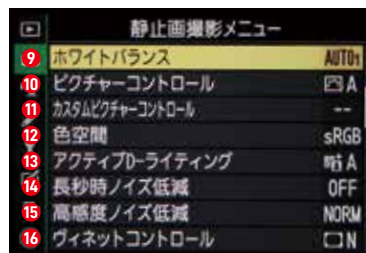


1 削除	複数の画像を一括して削除する時に使う。「選択画像削除」「目付選択」「全画面削除」から選べる。
2 再生フォルダー設定	再生時に表示される画像のフォルダーを選ぶ。「(フォルダーグループ名)」「全てのフォルダー」「記録中のフォルダー」から選ぶ。
3 再生画面設定	画像再生時の表示情報を選ぶ。「フォーカスポイント」「再生画面の追加」として「露出情報」「ハイライト」「RGBヒストグラム」「撮影情報」「統合表示」「画像のみ」から選ぶ。
4 撮影直後の画像確認	撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを選ぶ。「する」「する(画像モニター表示のみ)」「しない」から選ぶ。
5 削除後の次再生画像	画像を削除した後に表示する画像を選ぶ。「後ろのコマ」「前のコマ」「直前コマ送り方向に従う」から選ぶ。
6 縦位置自動回転	縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示するかどうかを選ぶ。「する」「しない」から選ぶ。
7 スライドショー	縦画像や動画を連続再生する。メニューには「開始」「再生画像の種類」「インターバル設定」から選べる。「再生画像の種類」がある。
8 レーティング	選んだ画像にレーティングを設定できる。★1～5から選ぶ。

2 静止画撮影メニュー



1 静止画撮影メニューのリセット	静止画撮影メニューをリセットして初期設定に戻す。「する」「しない」から選ぶ。
2 記録フォルダー設定	画像を保存するフォルダーを設定する。「フォルダーグループ名変更」「フォルダー番号指定」「既存フォルダーから選択」から選ぶ。
3 ファイル名設定	Z 50で撮影した画像のファイル名を任意に設定できる。設定したファイル名の後ろに番号が付随される。
4 撮像範囲設定	撮像範囲を設定できる。「DX (24×16)」「1:1 (24×24)」「16:9 (36×20)」から選ぶ。
5 画質モード	画像を記録する時の画質モードを選ぶ。「RAW+FINE」「RAW+NORMAL」「RAW+BASIC」「RAW」「FINE」「NORMAL」「BASIC」から選ぶ。
6 画像サイズ	画像サイズを選ぶ。「JPEG/TIFF」「RAW」から選ぶ。
7 RAW記録	RAW画像を記録する時の記録ビット数を設定する。「12ビット記録」「14ビット記録」から選べる。
8 ISO感度設定	静止画撮影時のISO感度の設定を行う。「ISO感度」「感度自動制御」から設定する。



9 ホワイトバランス	ホワイトバランスを設定する。
10 ピクチャーコントロール	記録する画像の仕上がりを設定できる。
11 カスタムピクチャーコントロール	「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して登録できる。
12 色空間	記録する静止画の色空間を選ぶ。「sRGB」「Adobe RGB」から選ぶ。
13 アクティブD-ライティング	白とびや黒つぶれを軽減し、見た目のコントラストに近い画像を撮影する。「オート」「より強め」「強め」「標準」「弱め」「しない」から選ぶ。
14 長秒時ノイズ低減	遅いシャッター速度の時に発生するノイズを低減する。「する」「しない」から選ぶ。
15 高感度ノイズ低減	ISO感度で発生するノイズを低減する。「強め」「標準」「弱め」「しない」から選ぶ。
16 ヴィネットコントロール	レンズの特性による周辺光量の低下を軽減する。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的。「強め」「標準」「弱め」「しない」から選ぶ。